

樹種名	ヤブニッケイ	
科 目	クスノキ科	
学 名	<i>Cinnamomum tenuifolium</i>	
分 布	福島県以南の本州、四国、九州、沖縄、国外では朝鮮半島、中国に分布する。	
樹木特性	温暖な森林に生育し、東アジアの暖温帯に分布している。暖地の二次林には良く見られる種であり、時としてクスノキやシロダモの芽生えと区別しにくい場合がある。	
用 途	庭木、材は建築・家具・器具材として使われる。 種子からは香油を取ることができる。また葉、根皮などに香気があるがニッケイよりは劣る。	  
植栽本数/面積 (植栽密度)	11 本／0.004ha (3,000 本／ha)	
特 徴	【樹形】 常緑高木であり、高さ 10m ほどになるが、高木層を形成するほどには高くない。樹皮は灰黒色で滑らか。 葉はほぼ対生につくが、ややずれていたり、互生に見えるものもあり、亜対生と言われる。葉身は楕円形で艶が強く、さほど厚くはないが、両面無毛で革質でごわごわしており、波打っていることが多い。深緑色で、表面にはつやが強く、はっきりとした三行脈が白っぽく透けて見える。葉の形等に変異が多く、分類は複雑である。ヤブニッケイとは言え、クスノキの仲間の特徴で、葉は揉むと芳香がある。 花期は 6~7 月に、本年枝の葉腋から、長柄のある散形花序を出す。1 つの花序に 5~13 枚の花を咲かせ、花弁は 6 枚、雄しべは 12 個。 堅実は楕円形で、12 月に黒く熟す。	
試験地での様子	ポット苗を植栽し、11 本が現存している。	
被 害	特になし	

【現存率】

平成 26 年に毎木調査をした結果、11 本が現存している。

【根元・胸高直径】

平成 26 年に毎木調査をした結果、平均胸高直径は 1.65 cm であり、成長スピードは遅い。

【樹 高】

平成 26 年に毎木調査をした結果、樹高は 2.03m であり、上長成長スピードは遅い。

《プチ情報》

和名は藪に生える肉桂の意味でありニッケイ(肉桂)に似て、芳香はあるが、ニッケイより劣るため、つまらないものの意でヤブがついた。沖縄ではシバニッケイやマルバニッケイとの雑種らしいものが知られている。ヤブニッケイの種子からは、香油を採る。

